

令和8年度 第2回 伎倍小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年6月23日（火） 14時から16時00分まで
- 2 開催場所 伎倍小学校 会議室
- 3 出席委員 木俣保広、日置芳美、竹内真哉、松嶋のぶこ、牧野絵里子、村松真理子、黒田慶
- 4 欠席委員 飯田勤、木俣愛佳
- 5 オブザーバー 梅林省吾（貴布祢第2自治会長）、祝田誠（貴布祢第3自治会長）
中村雅之（貴布祢第4自治会長）、鈴木睦明（小林下自治会長）
平尾憲二（地元有識者）
- 6 学 校 高木理恵（校長）、村田昌士（教頭）、常名瑞穂（教務）、
堀内育枝（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 堀内育枝
- 9 議長の選出
木俣会長から、議長について牧野絵里子委員が指名され、議事が進行された。

10 協議事項

- （1）授業参観の様子から…学校教育目標・重点目標に照らして
- （2）学校教育目標の具現化に向けた各学年の取組
- （3）伎倍小応援隊の活動について
- （4）地域の方がより参加しやすい手立てについて

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）授業参観の様子から…学校教育目標・重点目標に照らして

○木俣会長：掲示物や図書・備品の整頓が素晴らしく、学校全体の環境が整っている。
教育目標の達成に着実に向かっている印象を受けた。

○日置委員：以前より授業に集中している子供が増え、落ち着いた雰囲気になった。先生方の熱心な指導の成果だと感じる。

昼休みの読み聞かせに多くの生徒が自主的に参加しているのは素晴らしい。開催頻度を増やすことで、開催する図書委員の成長にもつながるのではないかな。

○竹内委員：子供たちが落ち着いて授業を聞けるようになった。デジタル機器の活用も良い。

○村松委員：先生方が子供一人一人の特性に合わせた柔軟な対応をしており、学校運営は非常にうまくいっていると感じる。

○鈴木自治会長：授業中の無駄話がなく、非常に集中している。

図書の充実ぶり、特に「哲学」などの専門的な分類に驚いた。

○平尾さん：長崎先生の子供自身の反省を促し、目標を立てさせる指導方法が素晴らしかった。

授業後の子供間のトラブル対応も子供たちの目線に立った納得のいく指導だった。
6年生の授業（縄文時代と弥生時代の違い）も勉強になった。

○黒田委員：数年前は落ち着きがなかったが、今日の6年生の授業は和気あいあいとしつつも落ち着いており成長を感じた。

4年生が静かにデジタル教材に取り組んでおり、良い変化だと感じた。

（2）学校教育目標の具現化に向けた各学年の取組

教務主任から、学校教育目標「ともに自分らしさを磨く子」と合言葉「超えよう 今の自分」のもと、各学年・学級で目標を掲げていること、成長が見られることを報告した。

（3）伎倍小応援隊の活動について

議長の指示により教務主任から1学期から3学期にわたる「伎倍小応援隊」への依頼計画について説明があった。

(4) 地域の方がより参加しやすい手立てについて

学校支援CD竹内より、支援の現状報告があり、地域住民への認知度向上が課題でチラシや回覧板では効果が限定的であるため、自治会長などにアイデアを求めた。

【関連議論】

- 中村自治会長：自身の町内会会合で応援隊活動を口頭で紹介することは可能。まずは自治会側で周知活動を担う。
- 祝田自治会長：既存チラシの活動例（部活動支援など）は現状と合っておらず、登録のハードルが高い。
- 日置委員：下校時の見守りを応援隊の活動メニューに加えてはどうか。「指定場所に立っているだけ」のような気軽な活動なら参加しやすいはず。
- 牧野委員：下校時の見守りは、登校時と異なり時間や場所の管理が難しく、議論が停滞していた。今後は「依頼型」ではなく、散歩などのついでにグッズを身に付ける「自主参加型」に方向転換し、犯罪抑止力を高めることを目的としたい。
- 中村自治会長：その方向で進めるなら、活動の考え方をまとめた資料（制度設計）があれば地域に協力を呼び掛けやすい。
- 木俣会長：「応援隊」という名称が団体活動のように受け取られがち。防犯パトロールは、地域安全活動の一環として町内会が主体的に住民へ伝える形が望ましい。
- 村松委員：回覧板だけでなく、学校行事の際に繰り返し呼びかけることが有効。また、子供から祖父母へ直接お願いしてもらうのも効果的。
- 松嶋委員：子供たちからの感謝の声を学校だより等で共有すれば、活動の意義が伝わり、参加意欲向上につながる。

【今後の具体的な活動提案】

- 竹内委員：登録ボランティアの特技を活かし、「星空教室」（7月5日開催予定）のような学校だけでは実現できない活動を企画している。今後も多様な提案を期待したい。

【地域協力者への感謝の伝え方について】

- 校長：地域の方々への感謝を子供たちから伝える場が不足していることが課題。今年度は感謝を表現する具体的な形を取りたい。アイデアとして対象が明確な場合は手紙を渡す。応援隊など多数の場合は、代表者宛の手紙をLINEで共有したり、学校行事に招待して発表の場を設けたりすることを検討中。

12 その他

(1) 業務量管理・健康確保措置実施計画について

教頭より、教職員の業務量管理（働き方改革）について現状と目標が説明され、関連議論の末、承認された。

【関連議論】

- 日置委員：残業の具体的な業務内容は何か。
 - 村田教頭：子供の下校後、生徒指導対応、会議、調査対応などに多くの時間が割かれ、授業準備が後回しになりがちである。
 - 高木校長：最も時間が掛かるのは生徒指導。子供たちが安定した学校生活を送ることが教員の負担軽減に直結する。教員でなくてもできる業務（プール管理など）を地域に手伝ってもらうことで、教員が本来の業務に集中できる時間を確保したい、というのが今回の提案の主旨。
 - 平尾さん：協議会メンバーは「先生の応援団」という意識を持つべき。教員の業務が増え続ける現状に理解を示した。
- (2) 第3回学校運営協議会について
- 教頭より、次回会議は令和8年11月6日（金）14時～開催予定で職員も参加する予定。